

# 2019年3月期決算 及び中期経営計画説明会

2019年5月8日

株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング

# 目次

## 1. 2019年3月期の業績

## 2. 中期経営計画（2020年3月期～2022年3月期）

(1) 中期経営方針

(2) 中期経営目標

(3) 2020年3月期の業績予想

(4) 中期事業計画

(5) 中期開発計画

## 3. トピックス

## 4. 再生医療の普及に向けた活動



# 事業セグメント

## 再生医療製品事業 医薬品医療機器等法

### 自家培養表皮



製品写真



外装写真

### 自家培養軟骨



製品写真



外装写真

## 再生医療受託事業

医薬品医療機器等法

開発製造受託 (CDMO)

開発業務受託 (CRO)

再生医療等安全性確保法

コンサルティング

特定細胞加工物製造受託

CDMO : Contract Development and Manufacturing Organization, CRO : Contract Research Organization

## 研究開発支援事業

### ラボサイト

(研究用ヒト培養組織)



製品写真



外装写真

ヒト3次元培養表皮

ラボサイト

エピ・モデル12

エピ・モデル24

エピ・キット(作成用)

ヒト3次元培養角膜上皮

ラボサイト角膜モデル24

(数字はウェル数)

# 当社の再生医療等製品

	 <b>自家培養表皮</b>			 <b>自家培養軟骨</b>		 <b>自家培養表皮</b> <b>開発名：ACE02</b>
製品写真						
基本技術の導入元	米ハーバード大学 Howard Green 教授			広島大学 越智 光夫 教授		米ハーバード大学 Howard Green教授
適応対象	重症熱傷	先天性巨大色素性母斑	<b>適応拡大</b> 先天性表皮水疱症	膝関節における外傷性軟骨欠損症又は離断性骨軟骨炎	<b>適応拡大</b> 外傷等に起因する二次性変形性膝関節症	尋常性白斑
承認状況	製造販売承認 2007/10 保険収載 2009/01	一部変更承認 2016/09 保険収載 2016/12	一部変更承認 2018/12	製造販売承認 2012/07 保険収載 2013/04	治験計画届 2018/7	治験計画届 2018/7
特記事項	国内第1号の再生医療等製品	初の適応拡大	さらなる適応拡大	国内第2号の再生医療等製品	適応拡大	皮膚科領域

注) 再生医療製品事業の開発パイプラインのみ (自家培養角膜上皮は再生医療受託事業に分類)

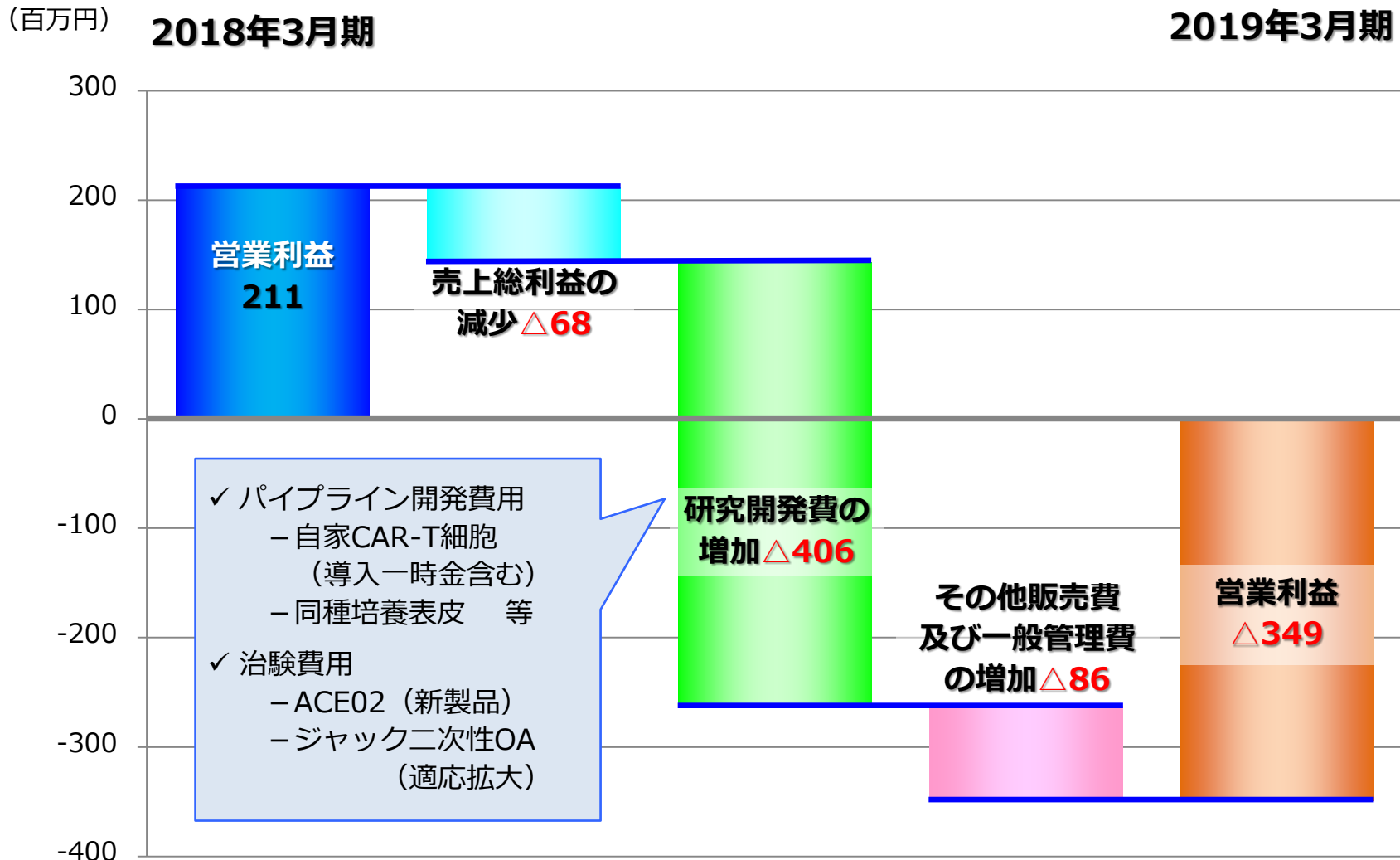
# 損益計算書の概要

単位：百万円 (百万円未満切捨て表示) (増減率は円単位で計算)	2018年 3月期 実績	2019年 3月期 実績	対前期		2019年 3月期 計画※	対計画 遂行率
			増減額	増減率		
売上高	2,271	2,357	86	3.8%	2,343	100.6%
売上総利益	1,353	1,284	△ 68	△ 5.1%	-	-
販売費及び一般管理費	1,141	1,634	492	43.1%	-	-
営業利益	211	△ 349	△ 561	-	△ 415	-
経常利益	213	△ 339	△ 552	-	△ 405	-
当期純利益	227	△ 333	△ 561	-	△ 413	-

※2019年1月30日開示の業績予想修正値

- ❖ 売上高は、ジャック・受託事業・ラボサイトの売上増により、対前期+86百万円。
- ❖ 販売費及び一般管理費は、自家CAR-T細胞治療の導入一時金を含む開発費用、および治験費用の増加等により、対前期+492百万円。
- ❖ 営業利益は、対前期△561百万円の減益。第1四半期は上記導入一時金等により赤字となったが、第2～第4四半期の累計では91百万円の黒字を維持。
- ❖ 2019年1月に開示した業績予想修正後の計画に対しては、売上高及び営業利益ともに達成。

# 営業損益増減の内訳



# セグメント別の売上高

単位：百万円 (百万円未満切捨て表示) (増減率は円単位で計算)	2018年 3月期 実績	2019年 3月期 実績	対前期		2019年 3月期 計画	対計画 遂行率
			増減額	増減率		
ジェイス	1,078	1,031	△47	△4.4%	948	108.8%
ジャック	309	372	63	20.5%	409	91.0%
再生医療製品事業	1,387	1,404	16	1.2%	1,358	103.4%
再生医療受託事業	785	835	50	6.4%	862	96.9%
(ラボサイト) 研究開発支援事業	98	118	19	19.9%	123	96.3%
売上高合計	2,271	2,357	86	3.8%	2,343	100.6%

- ❖ 再生医療製品事業は、対前期+16百万円、1.2%の増加。
  - 自家培養表皮ジェイスは、母斑向けが販売開始直後で待機患者需要が集中した前年に比べ減少。
  - 自家培養軟骨ジャックは、中期的臨床データの学会報告やテレビCM効果が奏功し、前年に比べ増加。
- ❖ 再生医療受託事業は、案件進捗に伴う収入や新規案件の獲得により、対前期+50百万円、6.4%の増加。
- ❖ 研究開発支援事業は、化粧品メーカー等への積極的な営業活動により、対前期+19百万円、19.9%の増加。

# 自家培養表皮ジェイス

## ジェイス®

自家培養表皮



❖ 売上高は1,031百万円で、対前期△47百万円、増減率△4.4%。

❖ 適応疾患別の売上状況は以下の通り。

① 熱傷は、第1～第3四半期には重症熱傷の発生数が少なく苦戦したが、第4四半期に入って前年同期を大きく上回る売上となった。

② 母斑は、安定的に受注を獲得したが、販売開始直後で待機患者需要が集中した前年に比べると売上は減少。

❖ 2018年7月、ジェイスは全都道府県での移植実施を達成。

## TOPICS 表皮水疱症への適応拡大

### 表皮水疱症友の会からのコメント

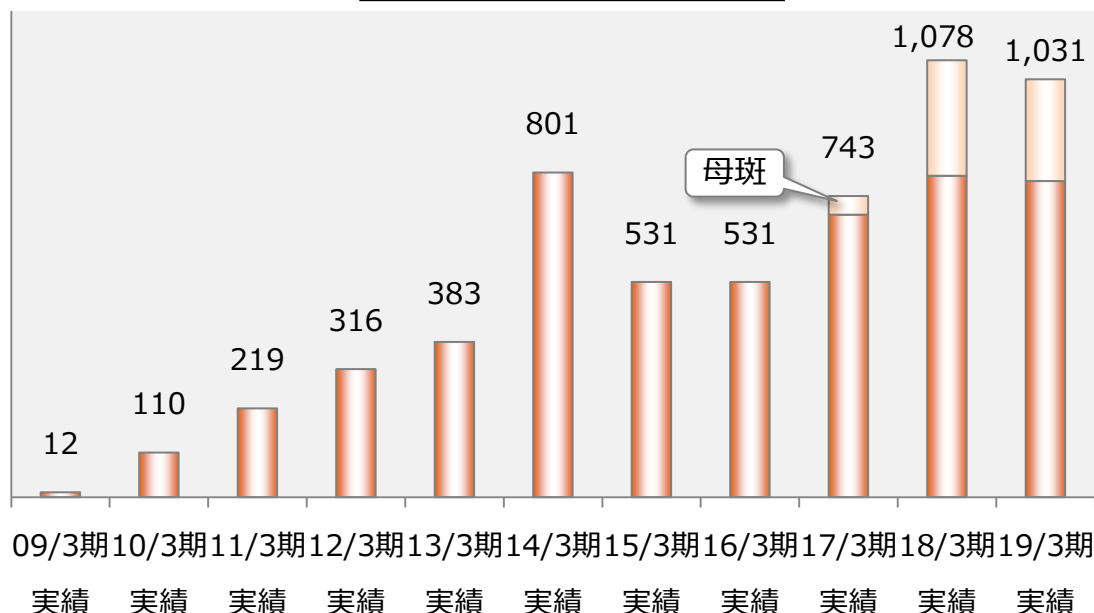
表皮水疱症治療に『ジェイス』という新たな選択肢が加わることで、私ども患者の日常的な痛みや合併症の不安が少しでも和らぐことを期待いたします。

当事者はもちろん、その家族のケアの負担が軽減でき、QOL（生活の質）の向上やADL（日常生活動作）の改善が図れることの幸せを願っています。



## ジェイス売上高の推移

(単位：百万円)





# 自家培養軟骨ジャック



- ❖ 売上高は372百万円で、対前期+63百万円、増減率+20.5%。
- ❖ 売上増加の要因は、第三者委員会による評価を踏まえた中期的臨床データを学会を通じて訴求したことや、富士フィルムグループのテレビCMによる認知度向上などが奏功し、新規施設を含め受注が増加したことなど。
- ❖ 2019年3月末時点で、38都道府県で移植実績があり、ジャックの使用届出施設は305施設（認定医師は1,574名）、移植実施施設は160施設。

## TOPICS

### 低侵襲化・移植手技簡便化の実現

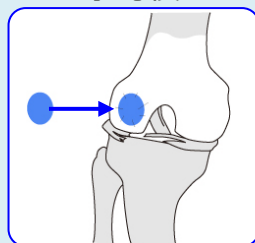
- ❖ 2019年1月31日付で、ジャック移植時に患者自身の骨膜に代わって人工のコラーゲン膜を使用する一部変更申請の承認を厚生労働省より取得。
- ❖ 医師からは「患者の侵襲度が低くなった」「手術時間が短くなった」といった声が寄せられている。

<承認前>



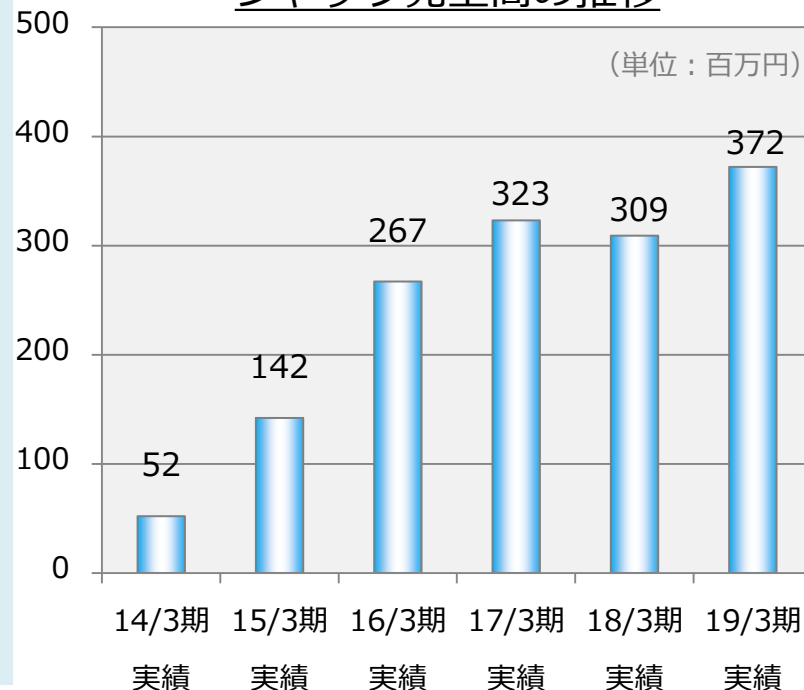
培養軟骨を移植し、  
脛骨から採取した骨膜でふたをする

<承認後>



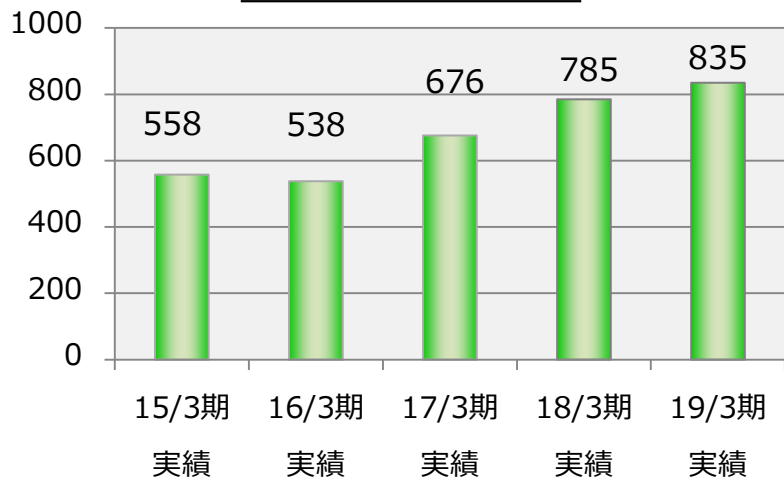
骨膜に代わり、  
人工のコラーゲン膜を使用する

## ジャック売上高の推移



# 受託事業

受託事業の売上高 (単位：百万円)



- ❖ 売上高は835百万円で、対前期+50百万円、増減率+6.4%。
- ❖ 売上増加の要因は、受託した案件（サイフューズ株式会社、東京慈恵会医科大学、兵庫医科大学等）の進捗に伴うマイルストーン収入や、新規案件の獲得。



## TOPICS

### ❖ 自家培養角膜上皮

ニデックからの受託開発を進めている本製品(開発名：EYE-01M)について、2019年3月に製造販売承認申請を厚生労働省に提出。

### ❖ 自家滑膜幹細胞による半月板損傷治療

富士フイルムと東京医科歯科大学が、2019年3月に半月板損傷を対象とした自家滑膜幹細胞の移植技術に関する特許ライセンス契約を締結。  
当社は本製品の医師主導治験に用いる治験品製造を受託。

### ❖ 白斑・難治性皮膚潰瘍治療向け培養表皮（臨床研究）

名古屋市立大学病院より製造受託している本臨床研究の共同研究施設に、2019年3月より蒲郡市民病院が加わり、当社は同病院からも培養表皮の製造を受託予定。

# ラボサイト



エピ・モデル24

- ❖ 売上高は118百万円で、対前期+19百万円、増減率+19.9%。シリーズ発売開始以来、初の年間売上1億円超を達成。
- ❖ 国内外の化粧品・化学品メーカー等に向けた積極的な営業活動により、売上が増加。
- ❖ 2018年7月には国内で皮膚基礎研究に携わる研究者を対象とした皮膚基礎研究クラスターフォーラムに出展。アジア向けなど海外への宣伝活動にも取り組み、海外からの問合せも増加した。

## TOPICS

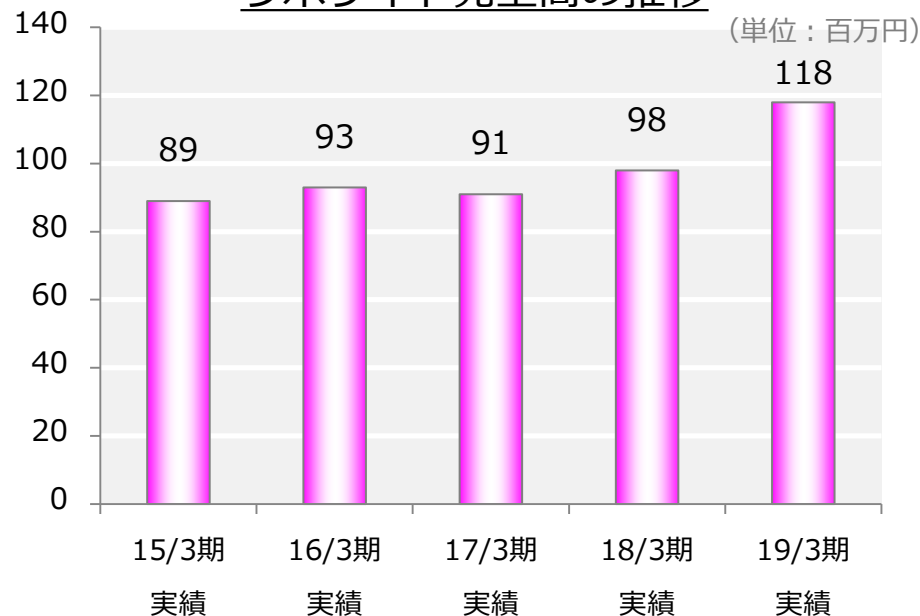
### OECDガイドラインへの収載

- ❖ 2018年6月には角膜モデル24を用いた眼刺激性試験法がOECDのガイドラインに収載。同年11月には、エピ・モデル24を用いた皮膚腐食性試験法のドラフトがOECDホームページにて公開。

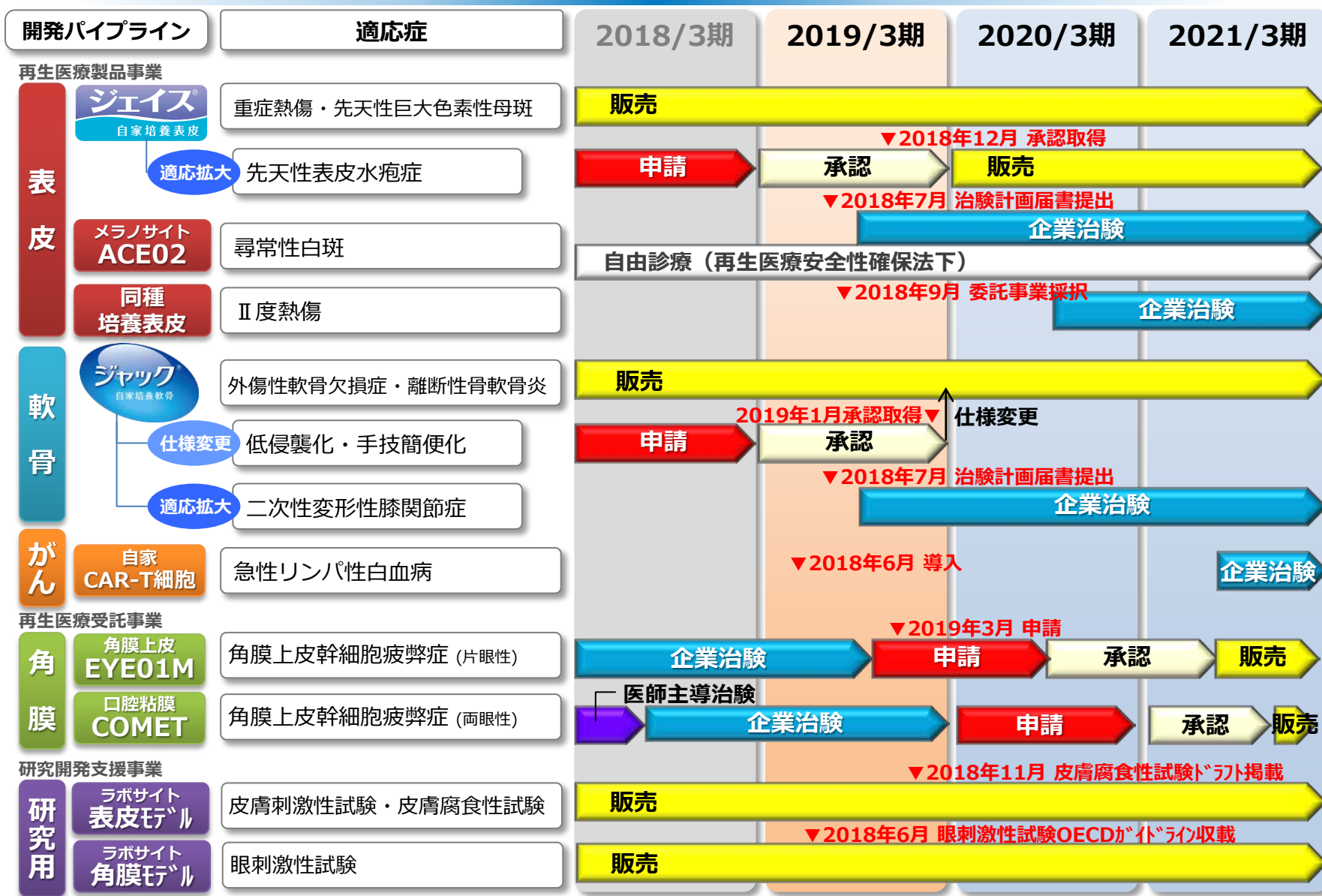


ラボサイト 角膜モデル24

### ラボサイト売上高の推移



# 開発パイプラインの進捗



# 開発パイプラインの進捗

	2018年	2019年3月期 主なニュース	開発パイプライン
①	4月25日	患者の身体的負担の軽減と医師の移植手技の簡便化に向けて再生医療等製品「自家培養軟骨ジャック」の一部変更承認申請書を提出	ジャック仕様変更
②	6月21日	名古屋大学・信州大学との、CD19陽性急性リンパ性白血病の自家細胞由来治療薬開発に関するCAR-T細胞の製造技術の特許ライセンス契約締結に関するお知らせ	自家CAR-T細胞
③	7月3日	メラノサイト(色素細胞)を保持した自家培養表皮ACE02の白斑を対象とする治験計画届書を提出	メラノサイトACE02
④	7月17日	ヒト3次元培養角膜上皮LabCyte CORNEA-MODEL24を用いた眼刺激性試験法が経済協力開発機構テストガイドラインへ収載	ラボサイト角膜モデル
⑤	7月19日	外傷等に起因する二次性の変形性膝関節症への適応拡大に向けて再生医療等製品自家培養軟骨ジャックの治験計画届書を提出	ジャック適応拡大
⑥	9月5日	平成30年度「医療機器開発推進研究事業」事業採択のお知らせ	同種培養表皮
⑦	9月10日	平成30年度「再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業（国内医療機関からのヒト（同種）体性幹細胞原料の安定供給モデル事業）」事業採択のお知らせ	-
⑧	11月12日	膝の再生医療情報サイト再生医療ナビに新たなコンテンツを掲載	-
<b>2019年</b>			
⑨	1月7日	自家培養表皮ジェイスの表皮水疱症への適応拡大 承認取得のお知らせ	ジェイス適応拡大
⑩	1月31日	低侵襲化・移植手技簡便化の実現に向けた再生医療等製品「自家培養軟骨ジャック」の一部変更承認取得のお知らせ	ジャック仕様変更
⑪	3月20日	自家培養角膜上皮（開発名：EYE-01M）の製造販売承認申請のお知らせ	角膜上皮EYE-01M

# 目次

1. 2019年3月期の業績
2. 中期経営計画（2020年3月期～2022年3月期）
  - (1) 中期経営方針
  - (2) 中期経営目標
  - (3) 2020年3月期の業績予想
  - (4) 中期事業計画
  - (5) 中期開発計画
3. トピックス
4. 再生医療の普及に向けた活動



# (1) 中期経営方針

## 【基本方針】 再生医療のさらなる普及に向けた、新製品の開発 ならびに生産技術革新・販売力強化を推進する

### (1) 新規再生医療等製品の開発

- ① 対象領域としては、既存の皮膚・軟骨領域に加え、角膜・がん領域を目指す。  
特に二次性変形性膝関節症など従来にない大規模な市場を狙い、飛躍的な事業拡大をはかる。
- ② これまで再生医療等製品の開発・適応拡大を実現してきた経験・ノウハウを生かし、既に治験を開始している製品および今後治験開始を予定している製品の開発を着実に進める。

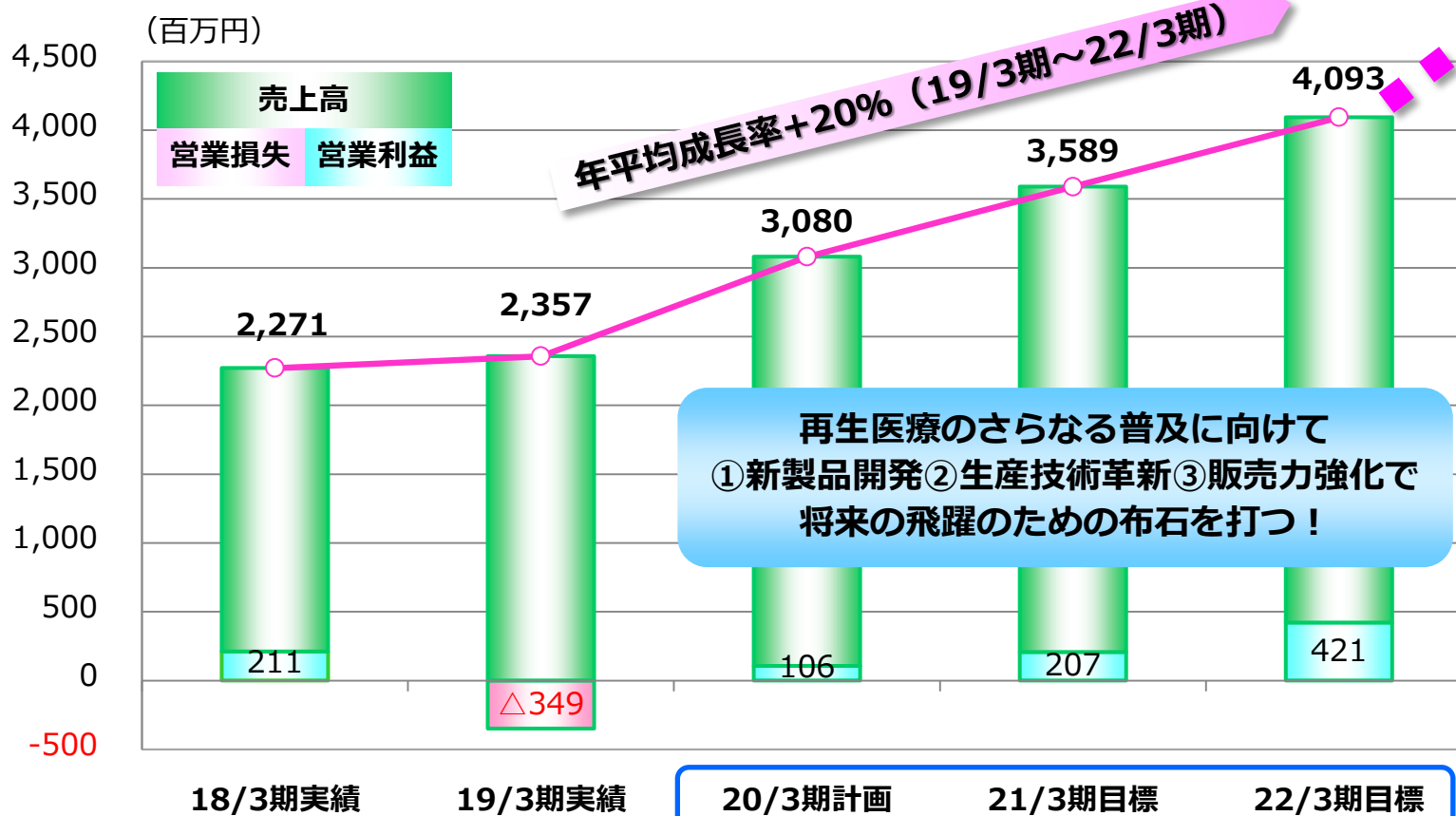
### (2) より多くの需要に備えた生産技術開発・販売力強化

- ① 自家細胞製品の大量受注・安定供給実現のため、これまで蓄積してきた培養技術と富士フィルムのエンジニアリング技術を融合し、革新的な生産技術・生産体制を確立する。
- ② 販売数量の増加に効率的に対応できる、再生医療の営業戦略・営業手法を確立するとともに、当該製品がより適切に使用されるよう情報の収集・提供の仕組みを再整備する。

### (3) 既存事業の伸長による安定した利益の創出

- ① 自家培養表皮ジェイスは、表皮水疱症で売上を伸ばす。自家培養軟骨ジャックは、コラーゲン膜による低侵襲化・移植手技の簡便化を徹底的に訴求し、症例数の増加につなげる。
- ② 受託事業は、これまで獲得した案件を成功に導くとともに、これら実績を礎にさらなる良質な新規案件を獲得する。加えて、当該事業モデルの一般化・標準化を目指す。
- ③ ラボサイトは、OECDテストガイドライン化の訴求と海外展開により売上増をはかる。

## (2) 中期経営目標



(単位：百万円)	売上高	対前期成長率	営業利益	営業利益率	経常利益	当期純利益
2019年3月期 (実績)	2,357	3.8%	△349	-	△339	△333
2020年3月期 (計画)	3,080	30.6%	106	3.4%	112	86
2021年3月期 (目標)	3,589	16.5%	207	5.8%	214	181
2022年3月期 (目標)	4,093	14.1%	421	10.3%	428	364



## (3) 2020年3月期の業績予想

単位：百万円 (百万円未満切捨て表示) (増減率は円単位で計算)	2019年3月期 実績	2020年3月期 計画	対前期	
			増減額	増減率
ジェイス	1,031	1,206	175	17.0%
ジャック	372	615	243	65.3%
再生医療製品事業	1,404	1,822	418	29.8%
再生医療受託事業	835	1,101	265	31.8%
(ラボサイト) 研究開発支援事業	118	156	37	32.0%
売上高	2,357	3,080	722	30.6%
営業利益	△349	106	455	-
経常利益	△339	112	452	-
当期純利益	△333	86	419	-

- ❖ 売上高は、ジェイス表皮水疱症、ジャック、受託事業、ラボサイトの売上拡大により、対前年増加を見込む。
- ❖ 営業利益、経常利益および当期純利益についても、売上拡大に伴い対前年増加、および黒字化を見込む。

## (4) 中期事業計画

### ① 再生医療製品事業

- ❖ 自家培養表皮ジェイスは、熱傷は使用枚数制限の緩和（40→50枚）の訴求、母斑は新規患者への普及により売上を維持。表皮水疱症で上積みを図る（年平均成長率※+8%）。
- ❖ 自家培養軟骨ジャックは、コラーゲン膜による低侵襲化・移植手技の簡便化の訴求に加え、施設基準緩和や富士フィルム診断機器との協業を追求する（年平均成長率+36%）。
- ❖ 自社開発パイプライン（中期開発計画参照）に加え、富士フィルムとの協業による新製品開発・販売を推進する。

### ② 再生医療受託事業

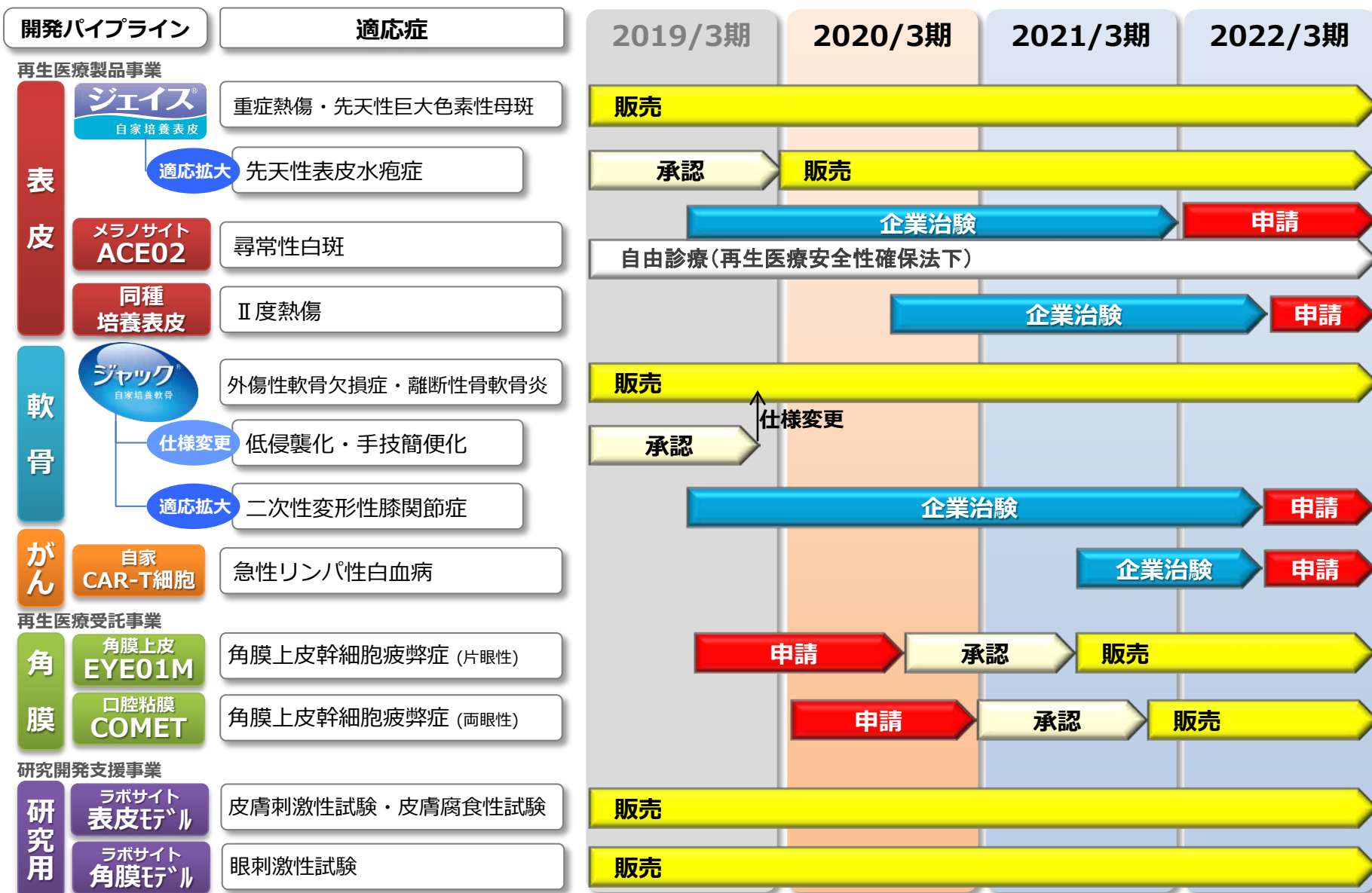
- ❖ 受託事業は、既存案件の確実な収益の獲得、蓄積した知見・経験を生かしたさらなる良質な新規案件の受注、および眼科領域製品の製造受託開始等により、事業を拡大する（年平均成長率+17%）。

### ③ 研究開発支援事業

- ❖ ラボサイトは、角膜モデルの眼刺激性試験、およびエピ・モデル24の皮膚腐食性試験のOECDテストガイドライン収載を梃子に、売上増を図る（年平均成長率+17%）。
- ❖ アジア圏への拡販に加え、富士フィルムのネットワークを活用した海外展開を検討する。

※年平均成長率は、2019年3月期～2022年3月期の4年間で計算。

# (5) 中期開発計画



# 目次

1. 2019年3月期の業績
2. 中期経営計画（2020年3月期～2022年3月期）
  - (1) 中期経営方針
  - (2) 中期経営目標
  - (3) 2020年3月期の業績予想
  - (4) 中期事業計画
  - (5) 中期開発計画
3. トピックス
4. 再生医療の普及に向けた活動



# 薬事承認プロセスとリスク

## 開発フローと各ステージで想定される開発長期化などのリスク

### ⚠ 製品開発時

- 原料や加工等により製品品質に高い不均一性が生じる
- 患者毎に細胞の特性が異なり、ばらつきが生じやすい
- 製品製造量に限りがあり、試験検査用の検体が限定的

- 適応範囲が限定的となる
- 施設基準、医師の資格・要件が限定的となる

### 製品開発

- 製品仕様の設計
- 品質設計
- 非臨床試験

### 治験

- 臨床データの収集
- 有効性・安全性

### 申請

- 承認申請書の提出
- GCTP適合調査

### 承認

### 市販

- 移植方法および手技のデザイン
- 使用成績調査（再審査は最長8年）

### ⚠ 治験時

- 期待通りの有効性・安全性を証明できない
- ✓ 治験前に患者由来の検体入手する事が困難であり、必ずしも特性解析結果が検討と同等ではない
- ✓ 対照群の設定・盲検化が困難
- ✓ 術者の手技が結果に影響を及ぼす

### 再生医療等製品の早期の実用化に対応した承認制度

治験で有効性が推定され、安全性が確認された場合

### 条件・ 期限付 承認

### 条件・期限付 市販

### 申請

### 承認

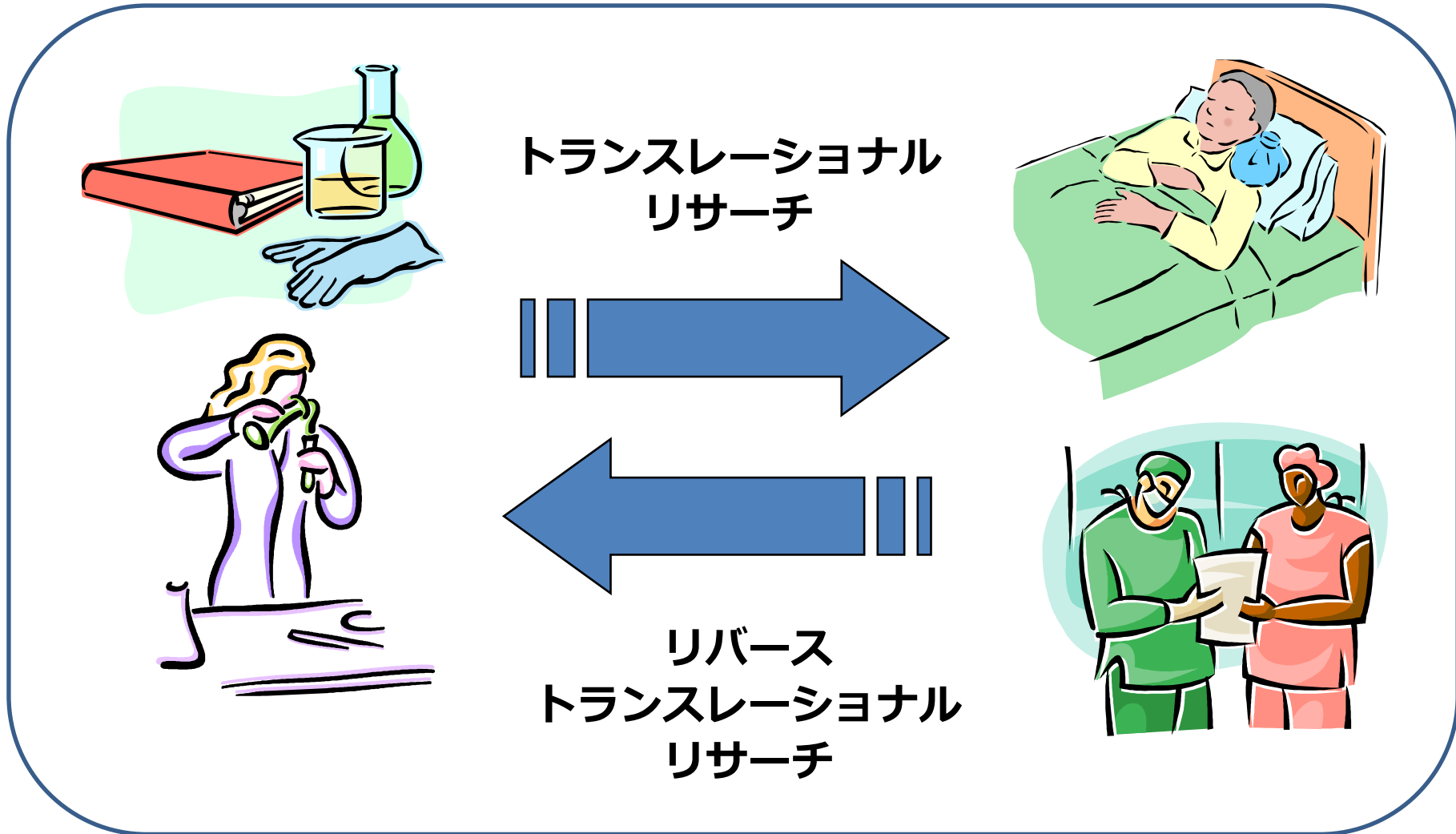
### 市販

### ⚠ 再調査時

期待通りの有効性・安全性を証明できない  
→条件・期限付承認が失効となる

各開発ステージでリスクコントロールすることで、計画的な開発推進が可能

# 再生医療と リバーストランスレーショナルリサーチ



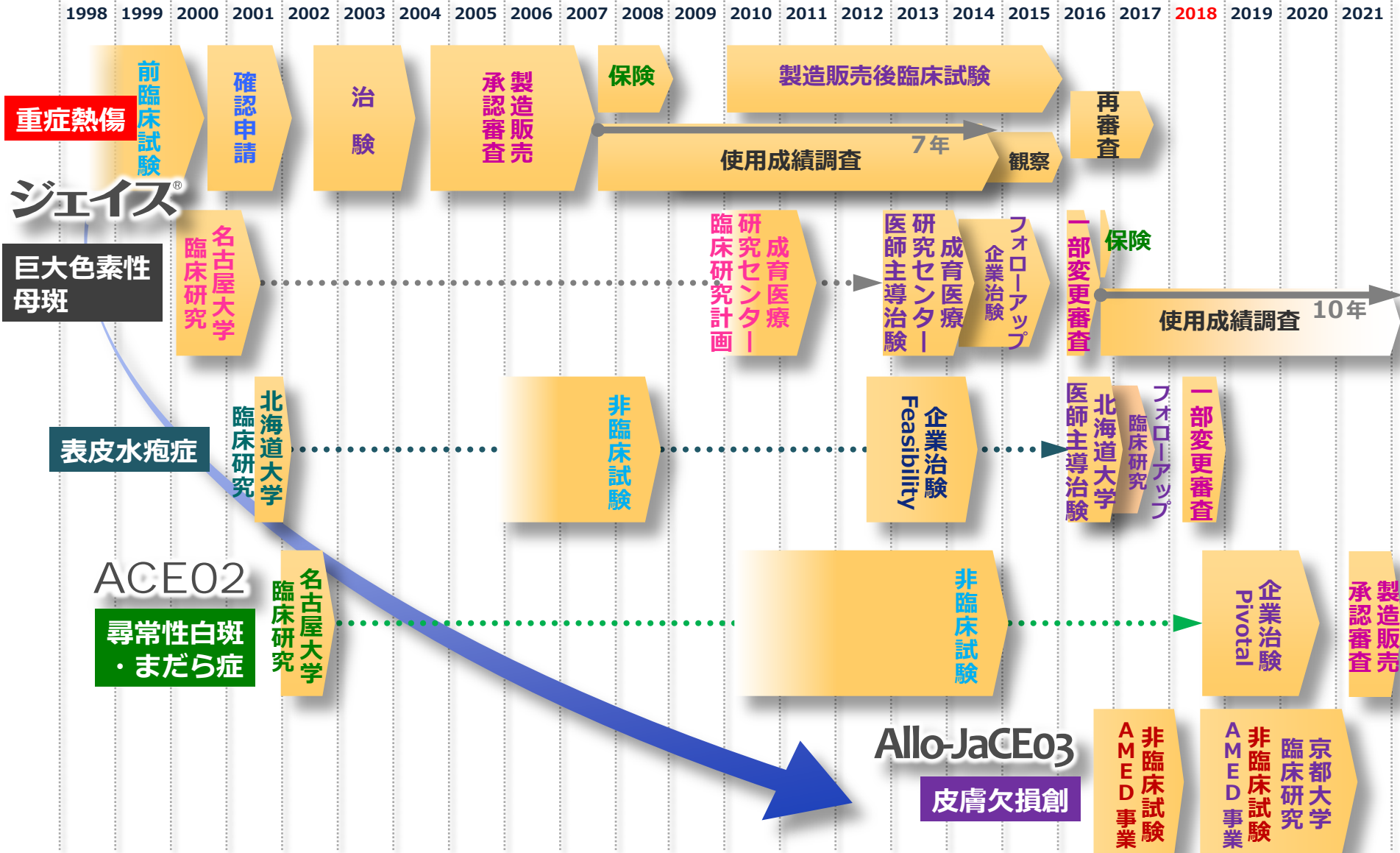
# リバーストランスレーショナルリサーチの事例

自家培養表皮「ジェイス<sup>®</sup>」は2007年に重症熱傷を適応として承認され、これまでに**1000例を超える臨床使用**を経験した。

その中で多くの臨床上の課題や知見が見出され、**新たな研究の対象**となり、**使用法の標準化**や**適応拡大**、**新製品の開発**につながっている。

	臨床使用における課題・発見	研究	新たな臨床展開
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>自家培養表皮の生着不良</li> <li>真皮再構築法による有効性の差異</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生着メカニズムの解明</li> <li>真皮再構築の組織的評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>使用法の標準化</b> (高倍率自家網状植皮併用)</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>表皮水疱症のびらん・潰瘍への移植後に再水疱化が抑制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先天性疾患の復帰変異モザイク部位の解明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>新たな適応拡大</b> (遺伝子治療と同等の効果)</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>全層欠損創へ移植後に斑状色素沈着</li> <li>表皮細胞培養時のメラノサイト混入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メラノサイトを維持した培養法の開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>新型製品の開発</b> (白斑などの色素異常症)</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>高倍率自家網状植皮との併用で短期間で生着し、高い有効性を発揮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物モデルを用いた自家植皮と自家培養表皮の併用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>同種製品への展開</b> (乾燥同種培養表皮)</li> </ul>

# 培養表皮の展開





# 平成31年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰

- ❖ 2019年4月9日、文部科学省の定める平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において、「自家培養表皮の開発」に関する功績で「科学技術賞(開発部門)」を受賞。
  - ✓ 「自家培養表皮ジェイス」が国内初の再生医療等製品であり、その開発過程で、国内における再生医療等製品の審査基準の構築をリードするなど、今日の再生医療の普及・発展に寄与した点が高く評価された。
  - ✓ 2010年4月5日には、平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において、「三次元培養による軟骨再生技術の振興」に関する功績で科学技術賞(科学技術振興部門)を受賞しており、今回、軟骨開発領域に続いての表彰となった。

## 平成31年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 表彰式



2019年4月17日 表彰式にて

(写真左：当社執行役員 井家益和、写真右：当社研究顧問 熊谷憲夫先生)

# 目次

1. 2019年3月期の業績
2. 中期経営計画（2020年3月期～2022年3月期）
  - (1) 中期経営方針
  - (2) 中期経営目標
  - (3) 2020年3月期の業績予想
  - (4) 中期事業計画
  - (5) 中期開発計画
3. トピックス
4. **再生医療の普及に向けた活動**



# 再生医療の普及に向けた活動（1）

- ❖ 蒲郡市は2013年に立案した「蒲郡市ヘルスケア計画」に基づき、再生医療のまちづくりを目指し、2015年に官民一体で組織された「蒲郡再生医療産業化推進委員会」を設立。再生医療（治療）の実施に向けた活動や市民への普及啓発・人材育成事業を地域連携で推進中。
- ❖ 当社は本事業に継続的に参画し、再生医療の普及や地域社会への貢献を目指している。



## これまでの取組み

2015年

- ・ 蒲郡市再生医療産業化推進委員会を設立

自治体で唯一の委員会

- ・ 蒲郡市民病院特定認定再生医療等委員会を設置 治療
- ・ 蒲郡再生医療産業化サミット開催 普及啓発 治療

再生医療を牽引する産学官関係者100名以上が蒲郡に集結。  
議論結果を取り纏め、「蒲郡再生医療産業化サミット宣言」が採択

2015年～毎年実施

- ・ 夏休みの再生医療体験講座（対象:小学生） 人材育成
- ・ 再生医療学会への派遣事業（対象:中高生） 人材育成
- ・ 再生医療講座（対象:一般市民） 普及啓発

2018年

- ・ 名古屋市立大学と蒲郡市との再生医療の実施における相互協力に関する協定を締結 治療

2019年

- ・ 蒲郡市民病院で白斑治療開始 治療

# 再生医療の普及に向けた活動（2）

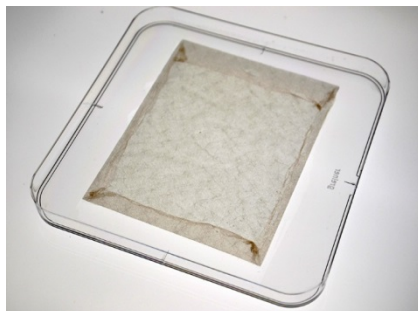
- ❖ 2019年3月より、蒲郡市民病院で白斑や難治性皮膚潰瘍などに対する自家培養表皮移植の臨床研究を開始。自治体病院での再生医療の実施は全国初。
- ❖ 再生医療の普及啓発および人材育成を目的として、小学生を対象とした再生医療の体験講座、一般市民向け公開講座「細胞で生命（いのち）を救う（CAR-T細胞療法）」、再生医療学会への中高生の生徒派遣といった活動を実施。

## 治療

### 蒲郡での再生医療実施に向けた活動



蒲郡市民病院



培養表皮

NHK NEWS WEB

東海 NEWS WEB

#### 自治体病院が全国初の白斑治療へ

04月05日 10時24分



肌がまだらに治療をめくり病院が、自治しては全国でを移植する臨になりました

これは、蒲郡立大学ととも

3月、厚生労働省から認可を受けました。臨床研究では、肌がまだらに白くなる「白斑」に対し、患者の体大きさほどの皮膚を培養したうえで、患部に移植する治療を行い名古屋立大学病院では、この治療について、すでに10例を超えるのほや額にできた白斑を自立たなくする実績を重ねて、人の医師がこの治療に取り組むということです。白斑の治療で、再生医療を活用した臨床研究を行うのは、自治体では全国で初めてだということです。蒲郡市民病院の河邊義和院長は「大学と遜色ない医療を安全に提供できるように努めたい」と話しています。

## 普及啓発

## 人材育成

### 市民への普及啓発活動

#### 小学生向け体験講座



顕微鏡で細胞を観察する様子

#### 再生医療学会への生徒派遣



企業展示で話を聞く様子

#### 市民向け再生医療講座



「細胞で生命を救う」  
名古屋大学小児科教授高橋先生

## 再生医療の普及に向けた活動（3）

- ❖ 当社独自の活動としては、ひざ軟骨治療に関する情報サイト「再生医療ナビ」に、自家培養軟骨移植術を受けたスポーツ選手の体験談（プロバレーボールの逆瀬川選手）、新たなドクターインタビュー（北里大学研究所病院 月村先生）、社員が踊る「軟骨コツコツ体操」を掲載し、更なる再生医療の認知度向上を図っている。

逆瀬川選手のインタビュー



北里大学研究所病院  
月村先生のインタビュー



軟骨コツコツ体操（J-TEC社員編）



ひざの再生医療のことなら「再生医療ナビ」 <http://saisei-navi.com/hiza/>

# 再生医療の普及に向けた活動（4）

- ❖ 最近では、健康未来EXPO 2019（日本医学会主催）にて、小学生を対象に細胞培養の一連の流れを体験するワークショップ「わくわく再生医療ラボ 細胞培養体験」を開催。
- ❖ 参加者からは「細胞培養についてよく分かった」、「将来、再生医療について研究したい」などといった好意的な意見が多く寄せられた。



「わくわく再生医療ラボ 細胞培養体験」



1 「皮膚から細胞を取り出そう」



2 「栄養液の交換をしよう」



3 「細胞を数えてみよう」



4 「培養皮膚を患者さんへ届けよう」

# 社会の持続可能な発展への貢献

- ❖ 当社は『再生医療の産業化を通じ、社会から求められる企業となる。法令・倫理遵守の下、患者様のQOL向上に貢献することにより、人類が生存する限り成長し続ける企業となる。その結果、全てのステークホルダーがより善く生きることを信条とする。』という企業理念のもと、再生医療事業およびその普及に向けた活動を推進している。
- ❖ 再生医療事業は公共性が高く、当社の事業活動そのものがCSR活動（企業の社会的責任）やCSV活動（共通価値創造）にも繋がっている。また当社では社員自らが「VISION2020」を掲げ、全社的に社会貢献に対する意識の浸透を図っている。

社員が掲げる「VISION2020」

**VISION  
2020**

再生医療の可能性  
を追求し、  
企業価値を高める

自分の成長に  
わくわくできる  
会社

社員が再生医療のプロフェッショナルとして、成長とやりがい、その成果を実感できる。多様な働き方に柔軟に対応し、社員の力を引き出す会社を目指す。

革新し挑戦し  
続ける会社

時代の変化をとらえ、再生医療のリーディングカンパニーとして、新技術の導入、再生医療の海外展開にも挑戦する。また、富士フィルムのグループ力を最大限活用し、着実に、成長し続ける。

社会が求める  
会社

自らの持つ最高の技術を注ぎ、最高品質の製品を提供し続けることで、全てのステークホルダー（医師、患者様とその家族、研究者、株主、社員等）からJ-TECの製品を求められ、愛され続ける、そんなモノづくりの会社を目指す。

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

## 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング

〒443-0022 愛知県蒲郡市三谷北通6-209-1

経営管理本部

TEL: 0533-66-2020 FAX: 0533-66-2019

Email: [jtec-info@jpte.co.jp](mailto:jtec-info@jpte.co.jp)